

鳴門教育大学から版 No. 17



大石雅章理事 日下部英紀 消費者庁審議官 津垣修一 消費者庁政策立案総括審議官 山下一夫学長 井上信治大臣 坂本有芳准教授 学部生 真鍋亜採加さん 学部生 一宮紫苑さん 尾前五朗事務局長

井上信治内閣府特命担当大臣 鳴門教育大学を視察

2020（令和2）年10月15日（木）、消費者庁の井上信治内閣府特命担当大臣（消費者及び食品安全）が、鳴門教育大学を視察に来られました。

本学が推進する「消費者教育推進プロジェクト」をはじめとする消費者教育への取組についての意見交換を目的としたもので、山下一夫学長から大学の概要や特色に関する説明後、坂本有芳准教授（消費者教育）から消費者庁新未来創造戦略本部や徳島県と連携したプロジェクトの取組を紹介しました。

また、学部4年次生2名が、消費者教育の実践を

進める教員になるための学習や取組を発表しました。

消費者教育の重点課題に関する意見交換では、非常時における冷静な消費者行動や消費生活のデジタル化が話題となり、井上大臣より消費者行政の推進にあたり、ぜひ若い世代の方々から意見を発信してほしいとの発言がありました。

本学は今後も消費者庁や徳島県などと連携し、消費者教育を一層推進していきます。

井上大臣と徳島

井上信治大臣は、幕末に阿波徳島藩藩医を務めた井上肇^{ちやうどう}堂^{まつえい}の末裔にあたり、徳島と縁の深い方です。高祖父である井上達也氏（肇堂四男）が、徳島から上京し東京大学教官として眼科学教室の創設に尽力し、その後東京駿河台に済安堂医院（現井上眼科病院）を創立し、近代日本眼科学の礎を築きました。このご縁もあり、意見交換は終始和やかな雰囲気の中、行われました。

また、本かわら版の4ページ目に、本学附属中学校の生徒が科学技術政策担当大臣賞を受賞したことをお伝えしていますが、その担当大臣が井上大臣であり、このこともご縁を感じます。



丸山洋司文部科学審議官が鳴門教育大学を訪問



丸山洋司文部科学審議官



浅野敦行課長



2020 (令和2) 年9月25日 (金), 丸山^{ようじ}洋司文部科学審議官と浅野敦行初等中等教育局初等中等教育企画課長が鳴門教育大学を訪れ, 山下一夫学長と懇談を行いました。

懇談では, 山下学長による大学の概要説明の後, 美馬^{よしひと}持仁理事 (地域連携・附属学校担当) から, ①地域における教員養成大学及び附属学校の役割, ②徳島県教育委員会との連携協力体制の構築, ③ (独) 教職員支援機構との協定に基づく四国地域での教員養成・研修を推進する四国地域教職アライアンスセンターの取組, ④G I G Aスクール構想に対応する本学の取組, ⑤四国地域での連携教職課程の設置に向けた取組などについて説明し, 意見交換を行いました。

また, 浅野初等中等教育企画課長からは, G I G Aスクール構想の実現に向けた文部科学省の施策について, 説明がなされました。

秋の叙勲で, 工藤智規氏 (経営協議会委員), 三牧壽夫氏 (元同窓会長) が受章



工藤智規委員



三牧壽夫元会長

2020 (令和2) 年秋の叙勲で, 工藤^{ともりのり}智規経営協議会委員 (元文部科学審議官) が瑞宝重光章を, 三牧^{としお}壽夫元同窓会長が瑞宝双光章を受章されました。

工藤委員には, 本学の経営協議会委員 (2016年度~), 学長選考会議の議長 (2018年度~) として, 本学の運営に貴重なご意見をいただいております。

三牧元会長には, 第7代同窓会長 (2009~16年度), 長期履修学生チーフアドバイザー (2014~17年度) として, 大学運営並びに在校生及び卒業・修了生への支援などにご尽力いただきました。

この度の受章, 誠にありがとうございます。

2020 (令和2) 年度秋季入学式を挙行



前列左から, アディカリ^{アディカリ} ADHIKARI さん, コウニョルゴ^{コウニョルゴ} KOUNIKORGO さん, 山下学長, ショレストハ^{ショレストハ} SHRESTHA さん, ティンドレボゴ^{ティンドレボゴ} TIENDREBEGO さん

12月23日 (水), コロナ禍の影響で渡日が遅延した秋季入学の外国人留学生に対し, 2か月遅れの入学式を執り行いました。本学は, 2018年度からJ I C Aとの連携プロジェクトに基づき秋期入学を実施しており, 今回は10月に大学院に入学した外国人留学生6名の内, 渡日のできた4名 (ネパールとブルキナファソから各2名) です。

約2か月間, 自国でオンライン指導を受けつつ, 渡日を夢見ていた彼らの悲願がようやく実現し, 期待と不安の表情を見せる入学者に対し, 山下学長から「指導教員を始め, 本学スタッフはこれまで培った外国人留学生の支援実績に基づき, 安心できる学修環境を提供します」, また「本学に集う様々な人々との出会いや対話を自らが積極的に経験することで, 鳴門教育大学に来て良かったと思えることを期待します。そして, 何より健康に留意して下さい」と温かい激励の言葉が述べられました。

留学生 (グローバル教育コース) が、公立高等学校で授業実践



ウィリアム タワケ
Willame TAWAKE さん



ベマ サノゴ ディアナ マルセラ アンディノ メヒア
Bema SANOGO さん (左), Diana Marcela ANDINO MEJIA さん

本学留学生が、徳島県内の高校において英語で理科の授業を実践し、また高校生と母国の文化や教育について紹介し合う交流活動を行いました。

2020 (令和2) 年11月13日 (金)、大学院修士課程グローバル教育コースに所属する JICA 研修員タワケ (フィジー)、同研修員サノゴ (マリ)、及び教員研修留学生メヒア (ホンジュラス) の3名が、武田清教授、寺島幸生准教授と共に徳島県立富岡西高等学校を訪問し、同校理数科1、2年生を対象に、母国と日本の各指導法を効果的に融合した理科の授業を英語で実施しました。

高校生は、英語でのグループ討論やプレゼンテーションなど

に積極的に取り組み、理科の内容に加えて、外国と日本の学習スタイルや文化の違いについて理解を深めました。留学生は、言語の壁を超えて主体的・対話的な学びを実現するための指導法について学修し、双方にとって学びの多い互恵的な教育活動が実現しました。

JICA 研修員や留学生による同校での出張授業は、2017年度に JICA から受託したスワジランド国別研修の一環で研修員が同校で理科授業を行って以来、高大連携事業として毎年実施しています。これまでに2017年度7名、2018年度2名、2019年度3名、2020年度3名と、延べ15名が参加しました。

令和2年度 鳴門教育大学優秀教員表彰式・特別表彰式を挙行

10月1日 (木)、令和2年度鳴門教育大学優秀教員表彰式並びに特別表彰式を行いました。優秀教員表彰は教育・学生生活支援、研究等において優秀な教員を、特別表彰は顕著な功労等のあった職員を表彰しています。

優秀教員 (ベストティーチャー賞)



やまもり なおと
山森 直人 教授
言語・社会系
教科実践高度化コース

大学院の教育課程における教育実践フィールド研究や教育実習の設計・運営の中核を担ってきた。

さらに、中学校 (英語) 二種免許状の取得を促す事業を通して地域の小学校教員の英語指導力の育成を支援するほか、複数の自治体で英語教育推進に関する委員会の座長を務めるなど、県内の学校英語教育発展に関する活動実績を評価。



たなか だいき
田中 大輝 准教授
グローバル教育コース

本学外国人留学生の修学サポートに尽力し、新設した日本語教育・日本文化分野の初代責任者として、同分野の運営・発展に寄与。

また、学生に海外の教育機関で日本語を教えることができる機会を整備するなど、「外国語としての日本語」を教授することができる日本語教師の養成を推進するなどの活動実績を評価。

特別表彰



いとう ひろみち
伊藤 弘道 教授
子ども発達支援コース

心身健康センター所長として、本学の保健管理に鋭意努力し、教育研究活動の維持に大いに寄与してきた。

新型コロナウイルス感染症の流行に際しては、専門的立場から助言・指導を行い、危機管理において大学運営へ貢献した実績を評価。また、令和2年度においては特別支援教育分野長を併任しており、これまでの同分野業務の円滑な遂行に貢献した実績についても評価。

第26回徳島障がい者芸術祭エナジー 2020 「エナジー賞」受賞



岡辺さん(左)と北岡附属特別支援学校長

2020(令和2)年10月, 附属特別支援学校高等部1年の岡辺亜希さんが制作した機織り作品「わたしのすいれん」が, 感性豊かな作品として評価され, 「第26回徳島障がい者芸術祭エナジー2020」でエナジー賞を受賞しました。

附属特別支援学校では, 自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち, 生徒の特性や発達段階に即し, 将来を見据えてその持てる力を高め, 豊かな生活を送れることを目指して教育課程を編成しています。高等部の作業学習の「機織り」は, その一環として位置付けている授業であり, 大きなマットからコースターまで大小様々な作品を制作し, 校内に展示しています。

機会がありましたらご来校いただき, 学習の成果を是非ご覧ください。

第64回日本学生科学賞(中学の部)「科学技術政策担当大臣賞」を受賞

2020(令和2)年12月24日(木), 徳島県高等教育機関連携型「ジュニアドクター発掘・養成講座」第二期受講生の田中舜さん(鳴門教育大学附属中学校3年生)が, 同講座の研究応用コースで課題研究として実施した「インジルビンの選択的合成と光触媒活性」により, 第64回日本学生科学賞において科学技術政策担当

大臣賞(中学の部:個人)を受賞しました。

また, 2021年5月に開催予定の国際学生科学技術フェア(ISEF)2021の日本代表(6件中, 中学の部からは1件)にも選ばれました。

2021年2月1日(月)には, 飯泉嘉門徳島県知事・全国知事会会長を表敬訪問しました。インジルビンは藍に含まれる赤の色素成分であり, 化学にも造詣の深い知事との歓談は大いに盛り上がりしました。

また, 山下学長から知事に, 2017年9月の第1回ジュニアドクター発掘・養成講座の開講式に来ていただいたことのお礼と, 徳島において未来のノーベル賞受賞者を育成したいという抱負が述べられました。

左から, 大泉計附属中学校長, 田中博隆氏(お父様), 田中舜さん, 飯泉嘉門知事, 早藤幸隆准教授(指導教員), 山下一夫学長, 美馬持仁理事



附属中学校, コロナ禍での学校行事の工夫

2020(令和2)年9月3日(木), 附属中学校で文化祭が開催されました。

今年度は, 新型コロナウイルス感染症の影響により, 多くの学校行事が中止される中, 劇やダンスの発表ができることを心待ちにしている3年生のために, 教職員が知恵を絞り, 実現に至りました。

当日は, ①3年生のみが体育館で演技する, ②劇中の音声は全てアフレコとし, 劇やダンスに出演する生徒全員がマウスシールドをつける, ③他学年には, 各教室にハイビジョン画像で中継するという感染対策を徹底した中で行われました。

附属中学校の大泉計校長は「今の世の中の流れの中で, 中止にすることは簡単だが, 僅か3年間しかない貴重な中学校時代に, 子供たちの記憶に残ることを, 安全面・健康面を最優先した上で, 可能な範囲で実施させたい」という教職員の熱意が, このような行事の開催に結びついた」と, 振り返りました。

